

1220 | 版画 III

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

版画という造形表現を用い、各自がイメージを膨らませ、テーマや表現方法の可能性を探っていく。

通信授業では、「自然」をテーマにして、各自が自由な解釈により、描く行為（ドローイング）を基に、版表現に結び付ける。また、版画作品は4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）のうちから1版種を選び学習する。版画制作のためのドローイングの重要性を認識するとともに、素材（版材、紙、インクなど）との関わり、技法の特性等を充分理解し、版技法をどの様に自己の表現に結びつけるかを考察する。面接授業では、「版画Ⅰ」と同様の「木版」「リトグラフ」を開設する。「版画Ⅰ」で選択していない版種を選び、その基本技法を習得する。

課題の概要

○通信授業課題「自然」

1-1 「自然」をテーマに指定された順番でドローイングする。

1-2 4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から1版種を選択し、課題1-1のドローイングをもとに版画作品を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」

1-1 「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。「版画Ⅰ」で選択していない版種を選ぶこと。

・「木版」イメージサイズ：22.5cm×30cm

・「リトグラフ」イメージサイズ：30cm×40cm 程度

授業計画

[通信授業]

学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ 2019年度』の「版画Ⅲ」を参照して、制作を進める。

教科書『新版 版画』第2章「モノタイプ」を参照。

[面接授業]

「木版」または「リトグラフ」（版画Ⅰにて選択していない方の版種を選択）

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第2日～5日 午前：制作 午後：制作

第6日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（版画コース3年次編入学生を除く）。

[備 考] 油絵学科版画コース3年次必修科目。

「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012年）

学習指導書：『版画Ⅲ～Ⅴ 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

1230 | 版画Ⅳ

3単位（通信授業1単位、面接授業2単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

版画という造形表現を用い、各自がイメージを膨らませ、テーマや表現方法の可能性を探っていく。通信授業では、「空間」をテーマにして、各自が自由に解釈し版表現に結び付ける。平面上にできる（絵画）空間は、奥行きのある空間、平面的な空間、錯綜した空間等、様々である。ここでは各自の表現としての空間とはどのようなものなのかを版を通して探っていく。面接授業では、「版画Ⅱ」と同様の「銅版」「スクリーンプリント」を開講する。「版画Ⅱ」で選択していない版種を選び、その基本技法を習得する。ここで4版種すべてを修得したことになるので、改めて各版種の特徴とは何かを考えてみる。

課題の概要

○通信授業課題「空間」

1-1 4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から1版種を選択し、「空間」をテーマに、ドローイング、版画作品を制作する。

1-2 自由にテーマを設定し、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」

1-1 「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。

・「銅版」イメージサイズ：18.2cm×24cm

・「スクリーンプリント」イメージサイズ：30cm×42cm程度

授業計画

[通信授業]

学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ 2019年度』の「版画Ⅳ」、教科書『新版 版画』を参照して、制作を進める。

[面接授業]

「銅版」または「スクリーンプリント」（版画Ⅱにて選択していない方の版種を選択）

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第2日～5日 午前：制作 午後：制作

第6日 午前：制作 午後：採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「版画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科版画コース3年次必修科目。

「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012年）

学習指導書：『版画Ⅲ～Ⅴ 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

1240 | 版画V

2単位（通信授業1単位、面接授業1単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

自己の表現を見つめて版や材料の特性を学び、「版画VI」以降の取り組みの中で専門性と造形表現を高める版種を明確にする。

通信授業では、「時間」をテーマにして、各自が自由な解釈を加え、版表現を試みる。「版画IV」までの履修によって、4版種の基本技法の習得を終えたことになる。ここからは積極的に表現方法を見出し、充実した研究制作が望まれる。面接授業では、各自が選択した版種の専門技法や特殊な製版などの実習を行い、基本的実習とは異なる視野を与えながら各自の表現を追求する（面接授業は開講する時期によって実習の内容が変わる）。

課題の概要

○通信授業課題「時間」

1-1 4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から1版種を選択し、「時間」をテーマに、ドローイング、版画作品を制作する。

1-2 自由にテーマを設定し、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「版種の専門技法の実習」

1-1 4版種の中から1版種を選択し、自由テーマで制作する。版種ごとに行う専門性を高める実習を通して、以降の研究課題、表現内容、選択版種などを明確にする。

*4年次の学習を視野に入れた版種を選択すること。

*スクーリングの実習内容は開講時期により異なる（下記参照）。

【夏期スクーリング】

- ・木版 [コラグラフ]
- ・リトグラフ [感光法 (PS版)]
- ・銅版 [メゾチント]
- ・スクリーンプリント [油性インク刷り]

【冬期週末スクーリング】

- ・木版 [木口木版]
- ・リトグラフ [石版]
- ・銅版 [フォトエッチング]
- ・スクリーンプリント [写真を使った作品制作]

授業計画

[通信授業]

学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ 2019年度』の「版画Ⅴ」、教科書『新版 版画』を参照して、制作を進める。

[面接授業]

「木版」「リトグラフ」「銅版」「スクリーンプリント」(1版種選択)

第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作及び指導
第2日	午前：制作及び指導	午後：制作及び指導
第3日	午前：制作及び指導	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「版画IV」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科版画コース3年次必修科目。

「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。

教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012年）

学習指導書：『版画Ⅲ～Ⅴ 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

1250 | 版画 VI

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

これまで幾つかのテーマについて、課題の中で取り組んできたが、この科目からは通信授業、面接授業ともに自由テーマによる制作となる。自己のテーマと表現に見合った研究課題を設定し、「卒業制作」を視野に入れた版種を選択する。制作過程で技術的修練を積み重ねることも重要だが、技法や材料への興味を越えて、版の特性を意図的に用いる具体的な取り組みが求められる。そこで、なぜ版を使うのか、如何に自らの表現の中で版を活かすのか、改めて考える機会にもなるであろう。それぞれの主題を決めるところから、版材、紙などの材料を研究し、自己の表現へと結びつけていくことを学習する。通信授業、面接授業ともに、「卒業制作」を視野に入れた版種を選択し、制作する。

課題の概要

○通信授業課題「自主制作 1」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作に予定している 1 版種を選択し、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「自由テーマによる制作」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、版画作品を制作する。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『版画 VI・VII／卒業制作 2019 年度』の「版画 VI」、教科書『新版 版画』の第 2 章、第 4 章を参照し、制作を進める。

[面接授業]

「木版」「リトグラフ」「銅版」「スクリーンプリント」(1 版種選択)

第 1 日 午前：前提講義及びドローイング指導 午後：制作（個別に指導）

第 2～5 日 午前：制作 午後：制作

第 6 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

* 第 1 日に卒業制作についてのオリエンテーションを行う予定。

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 版画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051 の特例を除く）。

[備 考] 油絵学科版画コース 4 年次必修科目。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

学習指導書：『版画 VI・VII／卒業制作 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

1260 | 版画 VII

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

各自の学習プランを基に、独自の版表現の確立を目指し、テーマや表現手法をより明確に示す研究が求められる。プランやテーマなど、この先にある「卒業制作」の軸となる部分が不明確な場合はここで再度、熟考しなければならない。美術として優れた表現とはどのようなものなのか。版を介して何を表現しようとしているのか。様々な課題に向かって各自が真剣に取り組み、確認作業をしていくことであろう。それは表現者としての基礎であり、最も重要な姿勢である。これまで積み重ねてきた制作をもとに、卒業制作を見据えた心の準備と、充実した制作を望む。通信授業、面接授業ともに、「卒業制作」で選択する版種を選び制作する。

課題の概要

○通信授業課題「自主制作 2」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「自由テーマによる制作」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、版画作品を制作する。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2019 年度』の「版画Ⅶ」、教科書『新版 版画』を参照し、制作を進める。

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義及びドローイング指導	午後：制作（個別に指導）
第 2～5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 「版画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（『学生ハンドブック』p.051 の特例を除く）。

[備 考] 油絵学科版画コース 4 年次必修科目。

「版画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「版画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

学習指導書：『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）